

計画作成の工夫

- ★ 教科書とわたしたちのまち仙台をバランス良く使う。教科書をベースに「わたしたちのまち仙台」を資料として扱う。
- ★ 小単元に入る前に別紙資料「事前調査（宿題）」をさせておくと大変有効。保護者との協力体制も作れる。
- ★ 小単元の導入時に、学習問題に対する予想を表にまとめる。小単元のまとめ段階で学びを反映した表と比較させ、学びの変容を共有する。自分事に考え、
- ★ 地域支援本部や町内会長のバックアップ、市民センター、市の防災減災アドバイザーの協力なども得られるようにしておくと有効。学校の防災倉庫（設備）・校内防災体制などもたくさん学ぶことができる。クリップや番組などの映像資料も活用できるものが多い。

総時数	時	●学習すべき事項、内容、活動 ⇒発問・指示 ※留意点
つかむ (2)	1	※東日本大震災のとき「家庭で何があったか」「地震にどう備えているか」を、単元の事前に児童に調べさせておく。今回は「家庭で何があったか」を活用する。 ワークシート「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」01 宿題」参照 ●県内でどのような地震が起こったかを知り、どのようにして乗り越えてきたのかを考える。 ① 東日本大震災のとき地域で何があったのか、発表し合って確認する。25分 ⇒「東日本大震災のとき、どんなことがおこりましたか。」 ・最大震度6。・津波が起こった。・崖崩れが起こった。・多くの方が亡くなり怪我をした。 ・避難所での生活があった。・水道やガスが使えなかった。 ※「わたしたちのまち仙台」P61を利用したり、教師が当時を伝える資料を提示したり、事前に調べさせた「家庭で何があったか」を発表させたりする。 ※身近に大災害が起こっていたことを認識させる。 ② 東日本大震災をどうやって乗り越えたのか考えさせる。15分 ⇒「大変な状況を、人々はどのようにして乗り越えてきたのでしょうか。ただ、自然と生きていけば乗り越えられたのかな。」 ・多くの人に助けてもらった。多くの人……市の人、地域の人、自衛隊、ボランティア ・助け合った。一人では何もできなかった。 ※何もしていないわけがなく、社会の仕組みや助けがあったことを引き出す。 ※考えつかない児童は「わたしたちのまち仙台」P63から調べさせる。 ※発表させながら、「自助・共助・公助」の言葉を押さえる。家庭の取組は「自助」。学校、地域の取組は「共助」。警察、消防、自衛隊、市、国の取組は「公助」。 ※子供たちとのやり取りを通して、学習問題につなげる。 地震から命やくらしを守るために、家庭、地域、市の人々は、どのようなことをしているのでしょうか。(学習問題) ③ 本時の振り返りをする。5分 ⇒「今日学習して考えたこと、思ったことを書きましょう。」 ※東日本大震災のイメージや捉え方が変わっている児童に発表させる。

●学習問題をもとに、学習計画を立てる。

1 前時の活動を想起させ、学習問題を確認する。10分

⇒「大きな地震が起きると、わたしたちのくらしはどうなるだろう。」

- ・家が壊れて住めなくなる。・避難所で生活することになる。・くらしが成り立たなくなるからみんなで力を合わせなければならない。

※前時を振り返らせたり、「社会科補助資料」P8 を利用したりして考えさせる。

2 予想を立てる。20分

⇒「これからの学習は、地震から命やくらしを守るため、だれがどのようなことをしているか調べていきます。その前に、自分で予想してみましょう。」

※ワークシートに「地震が起きる前と後」を「自助」「共助」「公助」に分けて書かせる。

[ワークシート「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」02 ワークシート予想」](#)参照

- ・地域の人達は、公民館で地震に備えて話し合っているのではないか。
- ・地震が起こったら、消防や警察や自衛隊が協力して救助にあたるのではないか。

※予想を個人で書かせるとともに、全体で共有していく。

3 学習計画を立てる。10分

⇒「学習の進め方を確認しましょう。自助→共助→公助」の順です。

⇒「次回までにお願ひがあります。おうちで取材をしてきてください。非常用グッズをメモや絵でもいいので調べてきます。」

※次時の自助の学習のため、家庭での取組を調べる活動をさせる。

4 本児の振り返りの学習感想を書く。5分

⇒「今日学習して考えたことや思ったこと、調べたいこととその理由などを書きましょう。」

※調べたいことやその理由など、書く観点を明確にすることで評価に生かす。

総時数	時	●学習すべき事項, 内容, 活動 ⇒発問・指示 ※留意点
調べる (6)	3	●地震からくらしを守るために家庭ではどのような取り組み（自助）をしているのか調べ、理解する。 地震からくらしを守るために家庭ではどのような取り組みをしているか 1 家庭で調べてきたことを振り返る。25分 ⇒「今日は自助について学習します。震災の時、家庭で何があって、今はどんなことをして備えているのでしょうか。調べてきた、震災時の話や各家庭のルールや備えを発表し合ひましょ う。」 〈何があったか〉 ・家具が倒れた ・物が飛び出したり落ちたりした ・電気, ガス, 水道が止まった ・家が壊れた ・避難所に避難した ・寒かった ・売り物が無くなって買い物できなかった 〈備え〉 ・防災グッズ ・家庭での約束 ・避難場所の確認 (「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」03 ワークシートまとめ」参考) ※ワークシート「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」01 宿題」を利用する。 ※教師が用意した資料（実際の防災の備えグッズ, 写真資料）や「社会科補助資料」P10 を利用することも考えられる。 ※調べたことを挙げさせ、黒板にまとめていく。 ・「何があったか」と「備え」と、関連する項目を線でつないで関係性を視覚化してもよい。 ・この後、ワークシート「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」03 ワークシートまとめ」にまとめるので、ワークシートに児童がまとめやすい板書を意識する。 2 家庭の取り組みをまとめる。15分 ⇒「自分や家庭の取り組みをワークシートに整理しまとめましょう。」 ※ワークシートの「自助」にまとめさせる。学習の中で「共助」「公助」が出てきた場合、それらも「共助」「公助」に書かせる。 ワークシート「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」02 ワークシート予想」参照 ※自分の身は自分で守ることの大切さに触れる。 ⇒「本時のまとめをしましょう。」 家庭では、震災の経験を生かし、日頃から対策や避難のルールを決め、自分の身は自分で守る意識をしている。 3 本時の振り返りの学習感想を書く。5分

4

●地震からくらしを守るために学校・地域ではどのような取り組み（共助）をしているのか調べ、理解する。

地震からくらしを守るために学校や地域ではどのような取り組みをしているか

1 学校や地域で、震災時起こったことや備えを確認する。25分

⇒「今日は共助について学習します。震災の時、学校や地域では何があって、今はどんな備えをしているのでしょうか。」

〈何があったか〉

- ・物が倒れたり飛び出したり落ちたりした ・電気、ガス、水道が止まった
- ・校舎が壊れた ・避難所になった ・給水や炊き出しが行われた

〈備え〉

- ・ものの転倒防止の固定 ・避難訓練 ・防災倉庫

※教師が用意した資料（震災時の学校の写真、学校や地域の防災倉庫の写真、避難所を示す看板の写真、震災時の教師の体験談）や、起こったことは「わたしたちのまち仙台」P63「連合町内会長さんの話」を、備えは「社会科補助資料」P13を活用する。

※上記のように資料が多くなるので、児童や地域の実態に合わせて資料を精選する。

※実際に学校の防災備品や備蓄を見学することも考えられる。

※前時の「自助」と同じように、児童から考えを挙げさせ、黒板にまとめていく。

2 学校や地域の取り組みをまとめる。15分

⇒「学校や地域の取り組みをワークシートに整理しましょう。」

※ワークシートの「共助」にまとめさせる。学習の中で「自助」「公助」が出てきた場合、それらも「自助」「公助」に書かせる。

[ワークシート「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」03 ワークシートまとめ」参照](#)

⇒「学校や地域と家庭との取り組みを比べましょう。関係していることや似ていることはありますか。」

- ・転倒防止や水や食料の準備など、地震への備えの準備が似ている
- ・自分たちの身は自分たちで守ることが似ている

⇒「本時のまとめをしましょう。」

学校・地域では、避難訓練や、防災倉庫での備蓄、学校や公民館を避難所にする準備などをして、備えている。

3 本時の振り返りの学習感想を書く。5分

※「自助」「共助」の関係について述べている児童がいれば取り上げ、関係性に注目する視点を学級で共有する。

●地震からくらしを守るために市ではどのような取り組み（公助）をしているのか調べ、理解する。

地震からくらしを守るために市ではどのような取り組みをしているか

1 市が震災時したことや備えていることを確認する。25分

⇒「今日は共助について学習します。震災の時に市はどんなことをして、今はどんな備えをしているのでしょうか。」

〈どんなことをしたか〉

- ・市長が本部長になって災害対策の指示・連絡をした ・救助活動を行った
- ・電気、ガス、水道を復旧した ・避難所や臨時の病院を作った ・給水や炊き出しをした
- ・国や自衛隊と連携した

〈備え〉

- ・防災計画を作る ・津波避難ビルや防潮堤、防災倉庫など、災害に備えた設備を作る

※「わたしたちのまち仙台」P62「地震が起きたときの連絡の仕組み」を利用する。災害対策本部が中心になって活動したことを押さえる。

※そのほか、「わたしたちのまち仙台」P62～64や「社会科補助資料」P14, 15, 教師が用意した資料などを活用する。実際に防災に関わっている方へのインタビューができた場合、公助が一人一人に届くには時間が掛かるため、自助や共助が大切であることに必ず触れてもらう。

※仙台市の防災計画「仙台市地域防災計画」はあるが、児童向けではないので、表紙を見せるなど紹介程度にとどめる。

仙台市地域防災計画

<http://www.city.sendai.jp/kekaku/kurashi/anzen/saigaitaisaku/torikumi/kekaku/bosai.html>

代わりに、仙台市HPやハザードマップをテレビにつないで全体に紹介して、市が市民へ防災情報を伝える取組をしていることに気付かせる。

仙台市HP 地震・津波への備え

<http://www.city.sendai.jp/gensaisuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/jishintsunami/taiou.html>

せんだいくらしのマップHP 「防災」にハザードマップがある

<https://www2.wagmap.jp/sendaicity/Portal?mid=308>

※前時や前々時と同じように、児童から考えを挙げさせ、黒板にまとめていく。

※防災訓練の計画や防災倉庫の設置は本来「公助」の役割だが、児童は前時までの学習もあって「共助」と考えていると思われる。「公助」は「防災訓練の計画作り」「防災倉庫の設置」など「自助・共助を支援する役割」を担っていることを押さえる。

② 市の取り組みをまとめる。10分

⇒「市の取り組みをワークシートに整理しまとめましょう。」

※ワークシートの「公助」にまとめさせる。学習の中で「自助」「共助」が出てきた場合、それらも「自助」「共助」に書かせる。

※防災訓練の計画や防災倉庫の設置は本来「公助」の役割だが、児童は前時までの学習もあって「共助」の中に書いていると思われる。「公助」に「防災訓練の計画」「防災倉庫の設置」などを書いた後、「自助・共助の支援」と書かせる。

[ワークシート「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」03 ワークシートまとめ」](#)参照

⇒「本時のまとめをしましょう。」

市では防災計画を作っている。計画にそって、地域や国との連携や、地震に備えた設備の整備や、市民への呼びかけをしている。

③ 次時に向け、市と地域の協力や連携に興味を持つ。5分

⇒「震災のような大きな災害の時は、市や警察、消防、自衛隊などはすぐに救助ができません。助けが来るまで、私たちはどうすれば良いのでしょうか。」

・自分の身は自分で守る。 ・自分で守り切れないときは、地域の人に助けてもらう。

※公助はすぐには動けないことに気付かせ、自助や共助が大切であることに気付かせる。

⇒「次回、警察、消防、自衛隊など公助が来るまで、自分たちの身を守るための工夫について学習します。」

④ 本時の振り返りの学習感想を書く。5分

※「公助」と「自助」「共助」の関係について述べている児童がいれば取り上げ、関係性に注目する視点を学級で共有する。

●市と地域は、災害に向けてどのような取り組みをしているか調べ、理解する。

市と地域の人は、災害に向けてどのような取り組みをしているのだろう

1 本時の課題をつかみ、内容を確認する。10分

⇒「災害に備えて、地域では誰が、どんなことをしているのか調べましょう。」

- ・災害に備えて自主防災隊がある
- ・災害が起きたら誰が何をするか担当を決めている
- ・防災訓練をしている
- ・防災設備を準備している
- ・市と協力している

※「社会科補助資料」P18 を読ませ、自主防災隊の役割について確認する。市と自主防災隊が協力していることに注目させ、公助と共助の協力や連携の関係に気付かせる。

※仙台市「自主防災活動の手引き」や仙台市HP「仙台市地域防災リーダー（SBL）とは」を、ホームページやタブレット写真をテレビにつないで全体に掲示し、仙台にも「自主防災組織」という、補助資料の自主防災隊に当たる組織があることを理解させる。

仙台市HP 「自主防災組織の活動」から「自主防災活動の手引き」がダウンロードできる

<https://www.city.sendai.jp/gensaisuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/sonaete/taisaku/jisyubou.html>

仙台市HP 「仙台市地域防災リーダー（SBL）とは」に、自主防災活動がまとまっている。

<https://www.city.sendai.jp/gensaisuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/sonaete/taisaku/sbl/sbltoha.html>

2 地域の人は防災訓練を通して、災害に向けてどんなことをしているのか考える。15分

⇒「災害に備えて、防災訓練ではどんなことをしていますか」

- ・避難訓練
- ・消火訓練
- ・炊き出し
- ・応急手当
- ・避難場所設置
- ・バケツリレー
- ・市役所との情報交換

※児童の経験を振り返らせる。教師が防災訓練の写真を用意したり、「社会科補助資料」P19 を活用したりする。

地域には自主防災組織があり、市と地域が協力して大地震に備えて訓練したり避難計画を作ったりしている。

⇒「自主防災組織の取り組みをワークシートに整理しましょう。」10分

※ワークシートの「共助」にまとめさせる。学習の中で「自助」「共助」が出てきた場合、それらも「自助」「共助」に書かせる。

[ワークシート「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」03 ワークシートまとめ」参照](#)

3 「共助」に対し自分はどんなことができるか、防災訓練を通して考える。5分

⇒「地域の一員として、防災訓練では皆さんはどんなことができるでしょうか。」

- ・避難所の活動を手伝う
- ・地域の人顔を覚えておく、地域の人に顔を知ってもらう

※地域の一員として活動することはもちろん、地域の人と繋がることの大切さに気付かせたい。地域の人と繋がるのが児童から出ない場合は教師から話題を出す。

4 本時の振り返りの学習感想を書く。5分

総時数	時	●学習すべき事項, 内容, 活動 ⇒発問・指示 ※留意点
まとめ る	7	●災害から命やくらしを守るための取り組みを, 市（公助）・地域（共助）・自分（自助）の三者の関係でとらえなおし, どれもなくてはならないことに気付く。 1 学習問題について振り返る。15 分 ⇒「学習問題は何でしたか。」 ・地震から命やくらしを守るために, 家庭, 地域, 市の人々は, どのようなことをしているのでしょうか ⇒「家庭「自助」・地域「共助」・市「公助」で地震に備えていることを発表しましょう。」 ・（自助）防災訓練, 家族でルール, 避難所の確認など ・（共助）自主防災組織, 防災訓練, 行事での関係づくりなど ・（公助）防災計画, 地域との連携, 自助・公助への支援など ⇒「自分の予想した表と学習した表を比べて考えたことを発表しましょう。」 ・予想より多くの備えをしていることが分かった。 ・「自助」「共助」「公助」それぞれが関係していることが分かった。 ※「自助」「共助」「公助」の三者の関係について述べている児童がいれば取り上げ, 次の活動の関係図作成への意識付けを行う。 2 「自助」「共助」「公助」の三者の関係について関係図を作成し, 交流する。25 分 ⇒「自助・公助・共助を線で結び, 関係を考えてノートに図や言葉でまとめてみましょう。」 ・どんな線でつないでいこうか。 ・この線にはどんな意味を込めたらいいかな。 ※思考ツールを示したり, 考えつかない児童には関係図例を与えて書かせたりと, 学級の実態に応じて工夫する。 資料 「有志の会指導計画「地震からくらしを守る」04 関係図例」 参考 シンキングツール®～考えることを教えたい～（短縮版） http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/ ⇒「ノートを指し示しながらグループの友達と意見を交流します。自分の考えを伝えたり, 自分の考えと比べながら友達の考えを聞いたりしましょう。」 ・〇〇さんの意見は, 私と似ています ・〇〇さんの意見によると, やはり自助の意識が大事だと思いました。その上で共助も公助も成り立っていると思います ・〇〇さんの考えから, 三者がどれも大事だとわかりました ⇒「それぞれのグループで出たおすすめを紹介しましょう。」 ※グループの中でおすすめの意見を紹介させる。その際, ノートを投影機やタブレット写真で全体に掲示し, 何がどのようにおすすめなのかを説明させることで, 様々な意見に触れたり, 考えを深めたりさせる。 ⇒「学習問題についてまとめます。」 地震から命やくらしを守るために, 家庭, 地域, 市, それぞれが災害に備え, 連携している。 3 本時の振り返りの学習感想を書く。5 分

いかす	8	●学習したことを生かして、地震から命や暮らしを守るため、自分ができることを考える。 地震から命や暮らしを守るために、自分ができることは何だろう 1 本時の課題をつかみ、自分の考えをまとめる。15分 ⇒「自分が、家庭でできる取り組みはどんなことでしょうか。ノートに書きましょう」 ・防災グッズの中身を確認する ・防災グッズの道具を自分でも使えるようにしたい ・自分用の防災グッズを用意する ・避難場所を家族と話し合っておく ・自分の部屋の家具が落ちたり倒れたりしないようにしたい ⇒「自分が、地域でできる取り組みはどんなことでしょうか。ノートに書きましょう」 ・防災訓練に参加する ・近所の人と顔見知りになっておく ・危険箇所を知っておく 2 自分の考えと友達の考えを交流し、大切なことを確認したり考えを深めたりする。25分 ⇒「ノートを指し示しながらグループの友達と意見を交流します。自分の考えを伝えたり、自分の考えと比べながら友達の考えを聞いたりしましょう。」 ・〇〇さんの意見は、私と似ています。自助・共助が大切です。 ・〇〇さんの話から、まず自分の身を守ることの大切さに気がきました。 ・〇〇さんの意見から、自分の身を守ることでその後の共助にもつながると思いました。 ⇒「それぞれのグループで出たおすすを紹介しましょう。」 ※グループの中でおすすの意見を紹介させる。その際、ノートを投影機やタブレット写真で全体に掲示し、何がどのようにおすすなのかを説明させることで、様々な意見に触れたり、考えを深めたりさせる。 3 本時の振り返りの学習感想を書く。5分 授業終了時 ⇒「この学習を通して考えた自分でできることは是非お家の人と話をして、地震から暮らしを守る防災会議をしてください。」 ※この時間の学習について、「社会科補助資料」P22, 23 で取り上げられている「ひなん所シミュレーション」は、災害対応ゲーム「クロスロード」を意識したと考えられる。高価であったり著作権の問題があったりすることから、購入して授業で活用することは現実的ではないと考える。 参考 京大大学生活協同組合HP クロスロード https://www.u-coop.net/kyodai/crossroad/crossroad.html
-----	---	---